

カリキュラムとGraduation Policy(GP)との相互依存関係一覧表

記入者名	
記入年月日	2006年4月1日
学部・研究科名	教育学部
学科・専攻専名	学校教育教員養成課程
コース専名	幼児教育コース

教育学部の教育目的（具体的に記述・箇条書き） 学校教育および社会のさまざまな分野において教育の素養をもって貢献できる人材の養成を目的とする。		学校教育教員養成課程の教育目的（具体的に記述・箇条書き） 子どもを愛し教育および教職に対する責務を深く自覚することを基礎として、児童・生徒の生活指導から教科指導に渡る幅広い能力を持った人材を養成する。		幼児教育コースの教育目的 1. 次代を担う子どもたちが人間として豊かにたくましく生きる力を身につけることができるよう、生涯にわたる人間形成の基礎を培う普遍的かつ重要な役割を担う人材を養成する。 2. 幼児教育における理論と実践を兼ね備え、子どもの視点から考えることができる人材を養成する。			
学校教育教員養成課程幼児教育コースのカリキュラム		学校教育教員養成課程のGraduation Policy(GP)（ = GP達成のために、特に重要な事項、 = GP達成のために、重要な事項、 = GP達成のために、望ましい事項）		幼児教育コースのGraduation Policy(GP)（ = GP達成のために、特に重要な事項、 = GP達成のために、重要な事項、 = GP達成のために、望ましい事項）			
授業科目名	授業科目の主題（箇条書き） （この授業科目における中心となる題目・問題・テーマ等を箇条書きに記入する。）	授業科目の到達目標（箇条書き） （この授業科目の学習後に到達すべき最低限の（行動）目標を学生が主語で行為動詞を使用して箇条書きに記入する。）	S1. 教育理念理解力・教職展望力：教育の理念や制度、教職の意義を理解し、広い視野から自己の将来のあり方を展望することができる。	S2. 教育方法・技術力、指導力：幼児・児童・生徒の心身の発達段階や教科の特質、教育方法・技術の基礎を理解修得し、発達段階に応じた指導をすることができる。	S3. 生活指導力：道徳・特別活動・生徒指導に関する教育方法を修得し、幼児・児童・生徒の生活全般に渡る指導を行うことができる。	S4. 教育実践力：教育現場における指導全般を実践的に理解・体得し、現場での適切な指導を行うことができる。	1. 幼児期の発達特性について理解することができる。 2. 幼児一人ひとりの内面にひそむ芽生えに共感することができる。 3. 幼児理解に基づき遊びを通して総合的に援助・指導することができる。 4. 幼児の主体的な活動を促す適切な環境を計画的に設定することができる。
学部共通科目							
総合演習	人類に共通する課題や日本社会に関わる課題について学ぶ。	1. 人類や日本社会の課題を理解し、説明できる。 2. 上記の課題を分析・検討し、自分の意見を持つことができる。 3. 上記の課題についての自分の意見を相手に応じて分かりやすい形で伝えることができる。	1. 2.	3.			
教科に関する科目（小学校専門科目）							
初等科国語	本授業ではまず、言語と人間の関係及び国語学力の内実について、考察し、次いで小学校国語科授業を構想する基礎となる教材分析の視点からお方法について具体的な説明を試みる。	1. 言語の機能について説明できる。 2. 小学校国語科の「内容」の得失について説明できる。 3. 教材を多角的に検討し、指導すべき内容を的確に抽出できる。 4. 言語の役割や働きに高い関心を持つ。 5. 積極的に教材開発分析に取り組むことができる。 6. 小学校国語科の「内容」について問題意識を持って考えることができる。 7. 考察した結果や問題点を文章で適切に表現できる。 8. 文学教材の授業改革はどうあるべきなのかについて理解する。 9. 改革の視点を考えることができる。 10. 授業改革について関心を示すことができる。 11. まじめに取り組むことができる。		1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10.			
初等科数学	1. 学校教育の範囲で扱えるさまざまな数学的問題に自ら取り組む。 2. 数学的見方・考え方、数学の面白さ、数学の価値等について考察する。	1. 学校教育で扱えるさまざまな数学に理解を示すことができる。 2. 数学的見方・考え方、数学の面白さ、数学の価値等について具体的に指摘することができる。		1. 2.			
初等科生活	1. 小学校低学年の生活科授業を運営して行く上で必要な栽培、飼育、表現等の知識、技能の修得を目指す。	1. 生活科授業運営に必要な知識、技能を獲得する。 2. 体験型授業の基本を理解し、構想できる。		1. 2.			

初専科音楽	小学校における音楽科の教育実践に必要な音楽の専門的な知識や技術について指導する。	1.音楽に関する知識や理論が身についている。 2.意欲的に音楽活動に参加し、創造的に音楽を表現することができる。 3.積極的に音楽的技能の習得に取り組み、音楽表現に生かそうとすることができる。		1. 2. 3.								
初専科図画工作	小学校の図画工作科の授業をするうえで必要な美術の基礎的技術、知識を習得する。平面造形、立体造形、鑑賞の3つの分野を学習する。	1.小学校の図画工作科における題材を理解し、表現技術と理解のための知識を習得する。 2.また、美的感覚を練磨する。		1. 2.								
初専科体育	1.小学校体育における各種の運動教材のうち、実技を通じた学習として体操・器械運動とタグフットボールを学習する。 2.なお、実技は2班に分かれ、体操・器械運動とタグフットボールを途中交替してそれぞれ7回ずつ行う。	1.体操・器械運動とタグフットボールに関する知識およびルールの正確な理解 2.講義に真摯に取り組む態度 3.体操・器械運動とタグフットボールの実習および指導		1. 3.								
教職に関する科目												
教職概論	1.教職の意義や魅力、求められる資質、能力などについて理解する。2.教職への意欲、志向、使命感などを育む。	1.教職の意義や基礎知識について理解し、説明できる。 2.教職への意欲や積極的な構えを持つことができる。 3.教職に就くための4年間の学習計画を立てることができる。	1. 2. 3.	1.	1.	1.	1.					
教育原論	1.教育を成り立たせる原則 2.教育の理念・目標とそれを支える思想の歴史的展開	1.教育の理念、目標、思想、歴史について説明できる。 2.授業で取り上げた問題について自分の意見を述べることができる。 3.教育について系統的に考えようとすることができる。	1. 2. 3.									
教育哲学	1.教育哲学の学問的性格 2.シュプランガーの生涯と教育哲学 3.シュタイナーの教育哲学とシュタイナー学校の教育	1.教育哲学の学問的性格が理解できる 2.シュプランガーの生涯と教育哲学が理解できる 3.シュタイナーの教育哲学とシュタイナー学校の教育の特色が理解できる	1. 2. 3.									
教育史	1.日本の教育の理念・思想の歴史的展開 2.日本の教育の歴史的な性格	1.日本の教育の理念・思想の歴史的展開について説明できる。 2.授業で取り上げた問題について自分の意見を述べることができる。 3.日本の教育の歴史的な性格について説明することができる。	1. 2. 3. 4.									
発達心理学	1.人間の発達の原理・要因について理解を深める。 2.発達段階及びその発達課題について学習する。 3.学校・家庭・地域など身近な場面での生涯発達として捉える。	1.自己の理解の上に立ち、発達心理学的知識を確実に吸収する。 2.知識やデータを主体的に受け入れ、自ら考え、判断できる。 3.日常生活に密接した興味・関心のある内容に意欲的に取り組む。 4.心理学的研究の方法や分析など基本的な手法について理解できる。 5.心理学を科学として位置づけることができる。		1. 2. 3. 4. 5.								
教育心理学	1.学校における教育活動において子どもをどのようにとらえるべきかを概観する。 2.児童・生徒の発達と学習の原理、個性の理解、さらに障害児童生徒の心理、教育評価についてデータに基づいて説明する。 3.いろいろな指導法や心理療法について概説する。	1.子どもへの援助的な指導のあり方について理解できる。 2.児童・生徒の発達と学習の原理、個性の理解、さらに障害児童生徒の心理、教育評価における理論について、データに基づいた見方ができる。 3.いろいろな子どもに沿った指導法や心理療法があることを理解できる。	1. 2. 3.	1. 3.								
教育社会学	本講義では、準拠集団における子どもの社会的発達(=社会化)について理論的・実証的に理解するとともに、教育社会学的研究の基礎をつくる。	1.社会化概念について説明できる。 2.子どもの発達に対する準拠集団の実態・課題について説明できる。 3.講義中で触れた領域について自分の意見を論理的に展開できる。 4.現代社会における「子ども・教育」問題を指摘できる。またその出現・解決のメカニズムについて自分なりに解決しようとする意志を示す。		1. 2. 3. 4.								

教育制度	1. 学校教育には様々な「制度」、「仕組み」が存在している。それらについて、テキスト、ビデオ、配付資料をベースに解説を加えていく。 2. 基本的に講義形式の授業だが、適宜意見を求めることがある。	1. 学校教育を中心とする教育制度の概要が理解できている。 2. 教育制度の特徴や課題について自ら具体例をあげながら論じることができる。	1.	2.														
教育法規	1. 教育法規を初めて学ぶ者を対象に、現行教育法規の要点をできるだけ分かりやすく解説する。	1. 現行教育法規の要点が理解できている。 2. 主要な教育法規について、法規定の文言、その意図するところを把握できている。	1.	2.														
社会教育	1. 生涯学習の観点から社会教育を方向づけるとともに、社会教育の各分野の基本的事項と課題について説明する。	1. 生涯学習のねらい、キー概念などの基本的事項について理解できる。 2. 社会教育の各分野の概要と課題について理解できる。	1.	2.														
国際理解教育概観	1. 国際理解および国際理解教育の必要性、基本概念、範囲について理解する。 2. 各目的の専門教科での国際理解教育の取り入れ方や実践方法について考える。 3. 現在の日本の学校教育における国際理解教育との関連性を政策面および実践面から理解する。	1. 国際理解および国際理解教育の必要性や概念と歴史的展開について理解し、説明することができる。 2. 国際理解教育の実践事例を自身の専門性と関連付けて考察することができる。 3. 日本の学校教育と国際理解教育の関連性を理解し、説明することができる。	1.	2.	2.	3.												
幼児教育基礎	幼稚園教師になるための要件や幼児教育の基本概念、保育思想の歴史や幼児教育を支える理論を紹介する。	1. 学校教育法の中の幼児教育に関する用語を理解し説明できる。 2. 倉橋忍三の仕事と間接教育論を理解する。 3. 幼稚園教育要領総則の遊びや体験の位置づけと間接教育の構造を理解し説明できる。 4. 幼児の自主的な活動を生み出す間接指導法の発想と方法を身に付ける。 5. 教職に就く学生として必須の時間厳守等のマナーと授業参加態度を身に付ける。	1.	2.	3.	4.	5.	1.	2.	3.	4.	5.	1.	2.	3.	4.	5.	
保育内容基礎	子どもの発達を眺める5つの窓口、「環境」、「人間関係」、「健康」、「言葉」、「表現」の基礎知識をそれぞれ紹介し、保育内容の研究に必要な視点を身に付けることを目的とする。	1. 基礎用語を覚える。 2. 子ども時代の原風景、原体験を基準として考える習慣を身につける。 3. 子どもの基礎知識をそれぞれ紹介し、保育内容の研究に必要な視点を身に付けることを目的とする。 4. 意欲的に質問し、わかるまで説明を求める。 5. 子どもの活動を後から他人に具体的に再現できる。	1.	2.	3.	4.	5.	1.	2.	3.	4.	5.	1.	2.	3.	4.	5.	
保育内容人間関係	保育内容として領域「人間関係」が位置づけられている今日的意味・意義を理解し、保育活動における「人間関係」の内容と方法について概説する。	1. 保育内容「人間関係」に関する基礎的事項について説明することができる。 2. 集団での議論に積極的に参加することができる。	1.	2.	1.	2.	1.	2.	1.	2.	1.	2.	1.	2.	1.	2.		
保育内容環境	保育内容の5領域のうち、環境の窓口から、対人環境、衛生環境、言語環境、造形環境を見て、子どもの環境に関わろうとする衝動を援助する保育材や環境構成を説明する。	1. 環境構成の視点について説明できる。 2. 子どもの活動をふまえた、柔軟な思考力や判断力を培う。 3. 身の回りの生活環境や環境保全に気をつける態度を養う。 4. わからない場合は、積極的に質問ができる。 5. 考察した結果を実際に現場で生かすように取り組むことができる。	1.	2.	3.	4.	5.	1.	2.	3.	4.	5.	1.	2.	3.	4.	5.	
保育内容健康																		
保育内容言葉	附属幼稚園の保育に参加し、保育場において絵本を読んだり、おはなしを語る方法を指導する	1. 乳幼児の言葉の発達過程が説明できる。 2. 登園から降園までの幼稚園の一日の中の幼児の言葉の使用例を理解する。 3. 挨拶言葉の意味と意義を理解し、挨拶言葉のもつ教育的意味を説明できる。 4. 幼稚園教育要領言葉の項目を理解する。 5. 絵本・紙芝居・ペープサートの特徴を知る。	1.	2.	3.	4.	5.	1.	2.	3.	4.	5.	1.	2.	3.	4.	5.	
保育内容表現	保育における表現では、知識・技術の能力ではなく意欲や興味、主体性に関わる創造力・判断力、思考力が重要である。子供が自由に自己の内面の創造性を発揮するための自発的な表現活動として「遊び」に注目する。この授業では、遊びの重要な要素である「造形表現」を重視し、その基礎とも言える「色」と「形」について理解を深める。	1. 幼児における「遊び」「表現」の重要性を説明できる。「色彩」の構造、理論を理解する。 2. 幼児期の「遊び」に興味を持つ。 3. 「色彩」に関心を持つ。 4. 指導者となる自らの表現能力、及び感性を高める。	1.	2.	3.	4.	1.	2.	3.	4.	1.	2.	3.	4.	1.	2.	3.	4.

<b>身体表現（指導法）</b>	1.<身体・かわり・表現>をキーワードにリラクゼーション、ストレッチング、ダンスの基本的動きを実践し、子どもの自然な身体からの発信を受容し、幼児の身体表現活動の指導法を学ぶ。 2.表現学習の計画・立案・実践トレーニングを実施する。	1.身体表現の指導法について解説できる。 2.対象に応じたムーブメントができる。 3.表現することの楽しさを共感できる。 4.積極的な創作活動ができる。 5.対象に応じた表現創作の発表ができる。	1. 2. 3. 4. 5.	1. 2. 3. 4. 5.	1. 2. 3. 4. 5.	1. 2. 3. 4. 5.	1. 2. 3. 4. 5.	1. 2. 3. 4. 5.	1. 2. 3. 4. 5.	1. 2. 3. 4. 5.
<b>造形表現（指導法）</b>	1.この授業では、視覚的な造形表現として、特に創造性とイメージの広がり重点を置いた演習を行う。 2.形のない「味覚」「音」「季節」等の抽象的なものをテーマに選び、色彩・形態・感性をトレーニングしながら創造力および表現の可能性を探り、自らの表現体験を通して造形表現の指導法を考える。	1.「色彩」の構造・理論を演習を通じ理解する。 2.「色彩」に関心を持つ。自由に発想することに意欲を持つ。 3.指導者となる自らの表現、技術及び感性を高める。	1. 2. 3.	1. 2. 3.	1. 2. 3.	1. 2. 3.	1. 2. 3.	1. 2. 3.	1. 2. 3.	1. 2. 3.
<b>音楽表現（指導法）</b>	1. 幼児の音に関わる表現や音楽に繋がる表現の基本的な活動について、具体的に実践活動を通して指導する。 2. 幼児教育現場のいろいろな場面における幼児の多様な表現活動の支援や指導のあり方について教授する。	1. 幼児の音に関わる表現や音楽に繋がる表現の基本的な活動について実践することができる。 2. 幼児教育現場のいろいろな場面における幼児の多様な表現活動に対して、支援や指導をすることができる。	1. 2.	1. 2.	1. 2.	1. 2.	1. 2.	1. 2.	1. 2.	1. 2.
<b>幼児教育方法技術</b>	明治以降の我が国の幼児教育方法を外観し考察する。	1.明治草創期から大正・昭和期の保育方法の概要を理解し説明できる。 2.レオ＝レオニの作品を事例に絵本の特徴を知り、読み聞かせの方法を体得する。 3.ペープサート・紙芝居の演じ方を体得する。 4.絵本・紙芝居等のテーマ別グループで調査研究し、実際的な方法技術を発表する。 5.幼児に対する言葉かけや接し方の基本を理解する。	1. 2. 3. 4. 5.	1. 2. 3. 4. 5.	1. 2. 3. 4. 5.	1. 2. 3. 4. 5.	1. 2. 3. 4. 5.	1. 2. 3. 4. 5.	1. 2. 3. 4. 5.	1. 2. 3. 4. 5.
<b>幼児教育メディア</b>	情報機器を用いた教材製作として、ノートパソコンを用いてWEB絵本を製作する。	1.描画ツールや音声入力ツールを使いこなすことができる。 2.幼児が好む絵や音を追求する力を培う。 3.コンピュータメディアへの関心を高め、メディアを楽しむ。 4.こだわりを持って積極的に作品制作に取り組むことができる。 5.様々なソフトに対応できる柔軟な基礎力を身につける。	1. 2. 3. 4. 5.	1. 2. 3. 4. 5.	1. 2. 3. 4. 5.	1. 2. 3. 4. 5.	1. 2. 3. 4. 5.	1. 2. 3. 4. 5.	1. 2. 3. 4. 5.	1. 2. 3. 4. 5.
<b>幼児心理理解</b>	乳幼児期の子どもの心理を理解するための基礎的事項および研究方法等について概説する。	1.乳幼児期の発達に関する基礎的事項について説明することができる。 2.集団での討論に積極的に参加することができる。	1. 2.	1. 2.	1. 2.	1. 2.	1. 2.	1. 2.	1. 2.	1. 2.
<b>幼児カウンセリング</b>	保育におけるカウンセリングマインドの意義等について概説する。	1.保育におけるカウンセリングの役割について説明することができる。 2.ロールプレイ等の活動に積極的に参加することができる。	1. 2.	1. 2.	1. 2.	1. 2.	1. 2.	1. 2.	1. 2.	1. 2.
<b>事前・事後指導</b>	1.教育実習前と後に行う指導を通して、高等学校での教育実習の目標の達成をより確かなものとする 2.教育実習に求められる必要不可欠な基本的・基礎的事項を身につける 3.教育実習の意義・概要・指導方法についての講義を行う 4.教育実習で得られた経験から教育実習における問題点の整理し、実習前の教育観、授業観、子ども観との対比から教育や授業に対する課題を認識する	1教育実習を行うにあたって必要な基礎的事項、教育実習にあたる心構えを身につけ、実行できること 2.授業記録を作成することができること 3.授業参観等を通して、教育観、学校観、授業観、子ども観をまとめることができること 4.授業参観等を通して、自分が行いたい学習指導、生活指導・生徒指導を説明できること 5.教育実習で得られた経験から教育実習における問題点を整理することができること 6.教育実習を通して習得した内容をまとめることができること 7.実習前の教育観、授業観、子ども観との対比から教育や授業に対する課題を認識することができること 8.教育実習を通して、学習指導、生活指導・生徒指導の観点から自分の変容について説明することができること	3. 7.		4. 8.	1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8.				
<b>教育実習（初等）Ⅰ</b>	幼稚園教諭免許・小学校教諭免許のための基本および応用実習	1.小学校・幼稚園における全般的な教育活動を体得する。 2.児童に対する理解を深める。 3.教育指導技術を修得する。		1. 2. 3.	1.	1. 2. 3.				
<b>教育実習（初等）Ⅱ</b>	幼稚園教諭免許・小学校教諭免許のための基本または応用実習	1.小学校・幼稚園における全般的な教育活動を体得する。 2.児童に対する理解を深める。 3.教育指導技術を修得する。		1. 2. 3.	1.	1. 2. 3.				

